

下野市行政改革推進委員会 議事録

- ・ 審議会等名 平成29年度 第5回下野市行政改革推進委員会
- ・ 日 時 平成29年12月14日（木）午後1時30分から3時30分
- ・ 場 所 下野市役所 2階 203会議室
- ・ 出席委員 杉原弘修会長、青柳庄一委員、伊澤和子委員、大越歌子委員、手塚英男委員、百武亘委員、小島恒夫委員、川上順次郎委員
- ・ 欠席委員 稲田智秀委員、高山幸雄委員
- ・ 市側出席者 （事務局）長総合政策部長、谷田貝総合政策課長、古口主幹、猪瀬副主幹
- ・ 公開・非公開の別（ 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 ）
- ・ 傍聴者 なし
- ・ 報道機関 なし
- ・ 議事録（概要）作成年月日 平成30年 1月30日

○次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事
 - （1）議事録署名人の指名
 - （2）行政評価市民評価まとめ
 - （3）その他
- 4 閉 会

○開会

（事務局） 平成29年度第5回下野市行政改革推進委員会を開会いたします。

○あいさつ

（杉原会長） 本日の会議は市民評価のまとめとなりますので、よろしくお願ひいたします。

○議事

（1）議事録署名人の指名

（杉原会長） 今回の議事録署名委員を指名します。本日は、青柳委員・伊澤委員にお願いいたします。

（2）行政評価市民評価まとめ

（杉原会長） 事前に、各委員の市民評価をまとめた資料が配付されておりますが、改めて事務局より説明をお願いします。

（事務局） 事前に配付いたしました委員個別評価集計結果をご覧ください。各委員からご提出いただきました市民評価シートを集計し、まとめた資料となります。委員評価につきましては、必要性、緊急性、効率性の各項目とそれに対する

総合的な内部評価における妥当性について、各委員からの評価結果を集計したのになります。評価意見につきましては、評価シートの意見欄に記入していただいた内容をまとめました。本日の会議において、委員会としての評価結果を決定していただきますようお願いいたします。

最終的に市民評価報告書を作成いたしますが、本日の協議内容に基づいて、評価結果とその評価内容、その他の個別意見について、事業ごとに記載させていただきます。評価内容につきましては、各委員の評価意見を参考に、評価結果に沿うような文章を記載させていただきます。また、その他の個別意見や反対意見についても、事前に出されている委員の皆様の見解をできるだけそのまま記載させていただきたいと考えていますが、事業評価に直接関係のない意見は除かせていただき、同じような意見は集約させていただきます。また、分かり易いように言葉を訂正させていただくこともありますのでご了承ください。各事業評価において、改めて意見がある場合はこの場でご協議いただければと思います。

なお、今後の流れとしまして、事務局にて市民評価報告書の素案を作成させていただきます、杉原会長に確認していただきます。その素案を、委員の皆様へ送付いたしますので、修正等のご意見を1月中旬までにいただければと考えております。その後は、市民評価報告書案を作成し、1月30日の委員会で最終的に確定していただきたいと思っております。以上です。

(杉原会長) 今後の手順について説明がありましたが、ご不明な点があればご質問ください。ないようですので、本日の主な作業であります市民評価まとめについて、委員個別評価集計結果を基に順次ご審議をいただき、委員会全体での評価を決定していきます。評価意見の中で不明瞭な内容があるという方がいらっしゃる場合は、遠慮なく意見交換等していただければと思います。それでは、1番目の「コミュニティFM放送事業」ですが、事務局から何かございますでしょうか。

(谷田貝総合政策課長) コミュニティFMの放送場所である演奏所について、前回、市役所庁舎内を想定しているとお話しさせていただきましたが、いろいろ検討する中で、道路に面した、市民の方に広く見える場所に演奏所を設置し放送する方が良いのではないかとということで、現在、自治医大駅東口のメイン通りへの設置を想定して検討しております。また、このFM放送については、電波の空きに対しての先願主義による申請となりますので、現在はその手続きについて総務省と協議を重ねているところでございます。以上です。

(杉原会長) 先願主義ということは、他に先願している方がいて混んでいるということなのででしょうか。

(谷田貝総合政策課長) 関東エリアで設定されるものであり、その中で空いている電波を探すということになります。

(杉原会長) 極端に言えば、競争相手がどんどん出てくる状況の中で、先願主義ということですから、先に申請した方から審査して許可を出すということになるかと思いますが、特別な事情がなければ、後から申請したものは遅れるといった

話になると思われます。しかし、それがいつ頃になるかは分からないということなのではないでしょうか。

(谷田貝総合政策課長) 演奏所を設置し、その後予備免許を申請します。予備免許をいただいた後、本申請として本免許の申請といった手続きとなっていきます。

(杉原会長) 先願主義といった制限の多い事業を興す場合に、緊急性との関係はどうなるのでしょうか。市で緊急性を仮に問題にした場合、先願主義においては、いくら緊急性を重視し向こうに主張したところで、特例として対処していただければ良いのですが、なかなかそうは行かないということになれば、緊急性の評価が非常に難しくなると思うのです。

(谷田貝総合政策課長) 緊急性については、災害等の緊急時に情報を市民に伝えたいという考えがありますので、総務省との協議を早く進められるように取り組みたいと思っております。

(杉原会長) 前回のヒアリングの時と少し状況が変わったということは、今、追加説明されたこと以外にはありませんでしょうか。それでは、以上の補足説明を持ちまして、皆様からご質問等いただきたいと思っております。

(小島委員) 前回のヒアリングでは、検討委員会について、例えば平成30年度に行うかどうかなどのお話があったかと思うのですが、委員会の設置についてはどのようなお考えでしょうか。

(谷田貝総合政策課長) 放送番組の適正化や円滑な放送を推進するために、市と関係機関並びに運営事業者による運営協議会のような組織の設置について検討していきたいと思っております。公設民営とはなっておりますが、当然、市が造る施設でありますので、運営は民間に任せるとして、行政情報の伝達方法や、市民が如何にFM放送に関わっていただくかについて、運営事業者と詰めていくこととし、市民に親しまれるFM局にしたいと考えております。

(川上委員) 運営事業者に任せる場合でも、市としての方針や、どのような内容を放送に盛り込みたいのか等、事前の計画が当然必要となって来るのではないかと思いますし、それに基づいて運営事業者が名乗りを上げるかどうかが決まってくると思います。運用事業者と詰めるのではなく、まず市が方針を打ち出し、次に、市の意向に沿って実施することができる適当な運営事業者を選んでいくことになるのではないかと考えます。事業推進においては、具体的に中身を詰めていく中で、そこに市民を入れた協議会になるべきであろうと考えますが、どのタイミングで市民を巻き込んでいくのでしょうか。そういった推進のための原案は、総合政策課で作られるのでしょうか。

(谷田貝総合政策課長) 運営事業者につきましては今月決定いたしましたので、今後は、市民参画も含めた市の考えを良く伝えまして、FM放送運営を任せていきたいと考えております。

(長総合政策部長) プロポーザル方式で、市で要綱等を作成の上、それに見合った業者が公募によってプレゼンテーションを行い、市の選考委員会において、運営事業者を決定いたしました。その要綱の中では、どのような役割を持たせるFM放送とするのか等の規定をしております。

(杉原会長) プロポーザルの参加業者は、何社あったのでしょうか。

(谷田貝総合政策課長) 1社でした。FM放送局においては、マスメディア集中排除原則により、既に開局している業者は新たに運営事業者となれないといった決まりがございます。1つの会社は何局も持てないといった制度でありますので、小山市の事業者がこちらにも参入するということが難しくなっています。

(川上委員) そうしますと、パーソナリティの問題などは、既に決まってしまうのでしょうか。

(谷田貝総合政策課長) 運営事業者が決まったばかりですから、事業者からの提案等も受けておりますが、その部分は、これから市で調整し進めていくこととなります。

(杉原会長) 前回のヒアリング時には、そこまで議論が進まなかったということもあり、プロポーザル方式や公設民営方式等、初めて聞くことがありました。公設民営方式については、ご存じのない方がいらっしゃると思いますので、簡単にご説明願います。

(長総合政策部長) インフラ等必要な整備については公の下野市が実施し、民間にその施設等を無償で貸し付けるということが公設民営方式であり、いわゆる上下分離方式ということになります。

(杉原会長) 設備を市がすべて準備します。運営主体の事業者が手を上げられて、その事業者が運営することとなりますが、運営によって得た利益で、その事業者は事業益を上げるということになります。広告費なども市が持つことになるのでしょうか。

(長総合政策部長) スポンサーを集めることも含め、広告費はすべて運営事業者が負担することとなります。

(川上委員) 管理監督は、市で行うということでしょうか。

(谷田貝総合政策課長) 市や運営事業者も参加する運営協議会において、放送内容等についての確認や検討をしていくこととなります。

(杉原会長) 他に意見等がないようでしたら、全体での評価に入ります。皆様の評価では、必要性・緊急性はA評価とB評価が同数の3票ずつであります。それぞれC評価が1票ありますので、ウェイトとしてB評価寄りであると考えられますがいかがでしょうか。効率性は多数決によりB評価とし、内部評価についても多数決により「おおむね妥当である」という結論を出してよろしいでしょうか。それでは、次の「地域おこし協力隊事業」に入ります。こちらにも意見がやや分かれておりますが、事務局より追加説明等はございますでしょうか。

(事務局) 特にございませぬ。

(杉原会長) 委員の皆様から、追加の意見等があればお願いしたいと思います。無いようでもありますので、結論としては、多数決により、必要性・緊急性・効率性はすべてB評価とし、内部評価を「おおむね妥当である」といたします。続きまして、3番目の「市内公共交通運行事業」ですが、事務局より追加説明等はございますでしょうか。

- (事務局) 特にございません。
- (杉原会長) 委員の皆様から、追加の意見等あればお願いいたします。また、評価意見を読んで、ご不明な点がある場合にもご質問いただければと思います。
- (伊澤委員) この事業をタクシー券で代用した場合の試算はされているのでしょうか。
- (川上委員) 以前、私は公共交通会議の委員をしていたことがあり、会議の中で同じ質問をしたことがあります。担当課からの答えはありませんでしたので、こちらの事務局では分かるはずがないと私は思っています。この事業には大変な予算が掛かっており、また、数年おきに車を買って替えていくこととなっています。アンケート調査では、利便性が悪いという意見が多く、行きたい時に行けない、混んでいて乗れないという意見であります。当初は、混んでいて乗れない場合は、運行しているタクシー会社の空き車両を出すということがありました。最近はなくなりました。そういうこともあり、乗りたい時に乗れるようにタクシーと同じような運行をした場合は、どのくらい費用がかかるのかということ、ちょうど1年くらい前に質問いたしました。回答としては、比較にならないくらいタクシーの方が高くなりますとありましたが、正確な数字の回答はありませんでした。私はそういうことを承知の上で、タクシー会社が良いうようにやっているのではないかという意見を書かせていただきました。車は市が用意し、整備等はタクシー会社に請け負わせ、市民からの利用料は全部タクシー会社の収入となります。そういった状況の中で実施するのであれば、もう少し運行方法を考えたらいいのではないかと思います。空いている時間帯にさらに有効に活用することはできないのか、空いている時間に皆が活用できるように循環バスを導入してみてもどうかといったことを意見させていただきました。事業者は直接自分たちに関係する部分に対してしか発言せず、今回もアンケートを取るとのお話でしたが、アンケート結果に如何に沿うかといった検討が為されるのが委員会であるにもかかわらず、当時も同様にアンケートを実施し、多くの意見が出され、それに対しての対応はありませんでした。この委員会は事業者の集まりであって、市民から意見を聴取するための集まりではないということを最後に申し上げました。当時もアンケートを調査しただけでありましたし、伊澤委員の先ほどのご質問についても、もし総合政策課でご存じであれば、ご回答願いたいものではありますが、残念ながら回答はないものと思われま。
- (長総合政策部長) 所管の安全安心課で把握しているかどうかについても、私どもでは分かりません。
- (青柳委員) デマンドバスを利用している方の生の声を聞きますと、本当に不便で仕方がないとのことでした。
- (川上委員) 今の時代において、市の中で、事業者と持ちつ持たれつ、寄り添うといった状況の中では、事業が上手く推進されないのではないかと個人的には思います。デマンドバスの背景にあるのは、事業者を侵食しないということ、今あるタクシー会社がそのまま存続できるような配慮の中で、市はこういった事業を実施していかなければならないことです。根本がそこにあっては、委員

会をいくら開催したところで、良くなっていくわけがないのではないかと思います。話は逸れますが、お弁当屋も同様であり、市がイベントなど実施する場合、持ち回りで依頼することになるかと思いますが、人気のないお弁当屋にも順番で回ってきます。平等に、助けるといった意味合いもあるのですが、市民はおいしくて安いお弁当を食べたいのに、そういった齟齬が生じてきます。公共交通においても同様であり、市の魅力あるものとなっていないのです。しかし、この事業は必要であると考えますので、もっと有効に、効率的に運用するような方法がないのかなど、いつも思っているのです。

(杉原会長) 要するに、デマンドバスにしても、デマンドタクシーにしても、交通弱者への交通配慮を考えた交通政策の一環であり、同時にコンパクトシティといった考え方がないと成り立たないものでもあります。コンパクトシティとは、1つの市の中心に病院から役所からすべて集中させ、そこに周りから集中してやってくるのには、デマンドバス等は非常に効率的なものであります。そういうコンパクトシティが出来上がってなく、分散してシティがある状況では、あっち行ったりこっち行ったりと、費用が掛かって仕様がないうけであります。その辺について川上委員が公共交通会議でご議論されたと思いますが、基本的に制度設計やプランニングが出来ていないところで、重要な事業であり要望もあるため実施しようとする、いろいろな矛盾が次から次へと出て来てしまい、費用は掛かるし、不便であるし、苦情はあるし、利用者には満足感もないといった、当然出てくる負の効果だと思います。それを、正の良い方向にどう向けていくのかが、実は、市役所の知恵の出し方であり、その知恵を誰から借りるのかということ、市民から得なければならないのですが、そこを無策で行ってしまうと、費用ばかり掛かり、不満ばかり募ってしまい、いつまでたっても交通弱者の対策にもならないし、コンパクトシティへの見込みも立たないといったことなのではないかと、個人的には思います。しかし、申し訳ございませんが、この委員会は事業仕分けの場ではございませんので、不満を意見するだけの委員会であります。伊澤委員、何かございますでしょうか。

(伊澤委員) 回答は気長に待つとしまして、できるだけ市民の気持ちに沿った運営としていただけたらと思います。また、川上委員のお話の中で、市がタクシー会社擁護といった内容がございましたが、やはり競争がないことが一番の問題ではないかと思っておりますので、先ほどのFM放送局においても1社だけとあり、危惧される要因ではないかと思っておりますので、十分注意していただきますようお願いいたします。

(長総合政策部長) FM放送の運営事業者については公募で行っており、結果として申込みのあった参加者が1社であったということでしたので、競争原理は働いていたと考えております。

(伊澤委員) 契約は何年なのでしょう。

(長総合政策部長) まだ、協定は締結しておりませんが、概ね5年ということになります。

(杉原会長) ここで、評価に戻りたいと思っておりますが、皆様の評価では、必要性・緊急性は

A評価、効率性はB評価、全体では「おおむね妥当である」となりますが、よろしいでしょうか。今日の意見も含めまして、全体的な評価内容を作成したいと思います。それでは、次の「認知症総合支援事業費」ですが、こちらは、委員の評価結果としてシンプルな結論が出ておりますが、まず、事務局から追加説明等はございますでしょうか。

(事務局) 特にございませぬ。

(杉原会長) 委員の皆様から追加でご意見等はございますか。無いようであれば、評価結果のとおり、必要性・緊急性・効率性をすべてA評価とします。内部評価に対して、「妥当である」と「おおむね妥当である」が4票ずつで分かれています。必要性等の評価を見ますと、「妥当である」につながりそうではありません。何かご意見等ないでしょうか。

(青柳委員) 私は、あまり期待がなかったといった部分で「おおむね妥当である」としましたが、「妥当である」にしたいと思います。

(杉原会長) それでは、「妥当である」の評価で決定したいと思います。次の「母子保健事業」につきまして、追加説明等はございますでしょうか。

(事務局) 特にございませぬ。

(杉原会長) 委員の追加意見等はいかがでしょう。無いようでしたら、集計のとおり、必要性・緊急性をA評価、効率性をB評価とします。全体では、先ほどと同様に、「妥当である」と「おおむね妥当である」が4票ずつで分かれています。効率性がB評価と低いので、全面的に妥当であるとは言いかねると思いますので、「おおむね妥当である」として結論付けたいと思いますが、よろしいでしょうか。次は、6番目「農地中間管理機構集積協力金交付事業」ですが、事務局から追加説明等はございますでしょうか。

(事務局) 特にございませぬ。

(杉原会長) 委員の皆様から追加でご意見等ございますでしょうか。無いようでしたら、多数決により、必要性と緊急性はA評価、効率性はB評価、全体としては「おおむね妥当である」ということでよろしいでしょうか。次は、7番目の「商工会支援事業」ですが、追加説明等はありませんか。

(事務局) 特にございませぬ。

(杉原会長) それでは、この事業においては、皆様から多くの意見が出そうでありますので、ご遠慮なくご発言願います。

(青柳委員) 必要性にC評価1票入っていることに寂しさを感じますが、こういった時代では、地域性がだんだん薄れてきてしまい、かなり厳しいところに来ていることは間違いないです。全体的に、個人事業者が相当落ち込んできている部分がございますので、どちらかと言えば、商工会支援事業は高めていただきたいと思います。

(杉原会長) 青柳委員は、必要性をC評価とした委員に対してのご質問といった部分もあるのでしょうか。

(青柳委員) 商工会に対して見えない部分もあるかと思いますが、可能であれば、こういった部分で必要性がないと考えているのかお聞きしたいと思います。ご意見

等いただければ、今後の参考にできるのではないかと思います。

(川上委員) 私がC評価としましたが、要は、商工会支援事業そのものを反対しているのではなく、本来あるべき姿として、商工会が主体性を持って事業を実施していくということが必要であり、その後、そういった事業が市の施策に合致するというので、市が支援等をしましょうということになることが良いのではないかと思います。その中で、旧3町を見ますと、商工会が主体性を持って実施しているものはイベントだけではないかと感じます。自治医科大学周辺であってもシャッター通りができかけている状況もありますし、旧3町に見られるシャッター通りは大問題であると考えます。商工会の皆様の様々なご事情があつて、現状につながっているとは思いますが、どうしていくのかといった商工会としての考えを出していただきたい。出せないのであれば、支援するに値しないと私は考えました。以上です。

(青柳委員) それだけ厳しいところに来ているということですね。はっきり言いますと、最悪のところに来ていると思いますし、指摘されても仕方がないと思いました。しかし、商工会の中でも温度差もありますし、やる気のある方がいても、少数派として潰されてしまうこともあります。頑張っている方が下されてしまうなど、そのあたりの悔しさや難しさはあると思います。

(川上委員) もう1つは、市としてまとまっていくために、1つの商工会であるべきであると思ひますし、そういった点でもバラバラでどうするのかと思ひます。

(青柳委員) 単純な話で、イベントにしても、例えば南河内の方の会場でイベントを開催したとして、果たして北部の方から参加されるでしょうか。おそらく参加しないと思ひます。石橋地区では大規模な納涼祭を行っていますし、他市町村からも人がたくさん集まっております。そういった面では、必要性はあるのかなと思ひますが、それが、地域の活性化につながるのかと言ひますと、疑問な部分があります。商店などの会員は、相当の負担をしておりますので、そういった見返りといった面でも厳しさがあると思ひれます。深く考えれば考えるほど難しい問題であり、また、地域性がなくなることに對しても、ものすごく寂しさがあるのです。

(川上委員) そういった取り組みで、石橋地区のシャッター通りが解消され、商店街が栄えていくのであれば良いのですが、イベントだけ実施して、その効果が地域に波及しないと1年であつてはならないと思ひますので、せつかく市が支援するのであれば、そこを如何に商売や活性化につなげていくのか考える必要があるのではないかとと思ひます。

(青柳委員) 後継者の問題もありますし、空き店舗を再利用といつても、利用する人がいないといった問題もあります。

(川上委員) 地域おこし協力隊がどう動いていただけるのか期待します。

(百武委員) 商工会をどう盛り上げていくのかという問題は、大型店舗が近隣に進出し、多くの方がそちらに流れている状況の中で、その流れに對して何をすべきかといつてもなかなか難しい問題であると思ひます。

(青柳委員) 昔はちりめんて有名であつた滋賀県長浜市では、今は閑散としてしまい、黒

壁といったグループが、古い蔵を利用してガラス工房を始めました。それにより、多くの人々が来るようになりました。そこには門前町という所もあり、黒壁を真似して商店街の店を直しましたが、良かったのは最初だけでした。というのも、外見だけ変えただけで、中身が変わっていないことが原因でした。箱だけ変えたということで、無駄な出費となってしまったとありました。結果として、当事者が変わらなくてはならないということだと思えますが、そういった失敗例もありますので、なかなか難しいと思います。

(川上委員) 私は商工会のメンバーでもないのですが、言いたい事を言っていますが、あるべき姿を明確にしておく必要があるのではないかと思います。

(小島委員) 石橋の北部の方に、卵明舎という卵屋がございますが、多くのお客が入っており、1つの参考となるのではないかと思います。良いものであれば多少高値であっても、奥様方が購入しにやってくるのです。確かに、近隣に大型店舗がありますが、それに対抗するのは無理だと思いますので、やはり質ではないかと考えます。そういった商売もありますので、なんとか工夫していただきたいと思います。

(杉原会長) 商工会の存在意義みたいな話になりましたが、委員会としての問題は、市として商工会振興にどのように関わっていくのかということでもありますので、市の方にも頑張っていただきたいと思います。

(青柳委員) 機会がありましたら詳しくお話ししたいと思いますのですが、もう1つ、石橋商工会の方では不公平感も感じておりますので、合併するにはそこをクリアしなければいけないと思います。

(杉原会長) そうしましたら、市民評価としまして、多数決により必要性をB評価、緊急性をA評価、効率性をB評価、全体として「おおむね妥当である」とまとめさせていただきます。「妥当でない」との評価もございますが、よろしいでしょうか。次に、8番目「都市計画総務事務費」に入りますが、追加説明等はございますでしょうか。

(事務局) 特にございませぬ。

(杉原会長) 委員の皆様からは、改めてご意見等ございませぬか。必要性と緊急性については、A評価とB評価が4票ずつと拮抗しております。全体では「おおむね妥当である」となりますが、「妥当である」が1人もいらっしやらないということで、必要性・緊急性はいずれもB評価とし、効率性については票のとおりB評価とさせていただきます。よろしいでしょうか。それでは、9番目の「下野子ども力発動プロジェクト事業」ですが、委員の皆様からご意見等ございますでしょうか。無いようであれば、多数決により必要性・緊急性をA評価とし、効率性についてはA評価とB評価で4票ずつであります。全体では「おおむね妥当である」の評価が多いことから、その評価に合わせて、効率性をB評価とさせていただきます。よろしいでしょうか。次は、最後の「小中一貫教育推進事業」となりますが、皆様から何かご意見等はございますか。こちらが無いようですので、多数決により必要性と効率性をA評価とさせていただきます。緊急性についてはAとBで4票ずつ分かれまして。全

体評価においては、「妥当である」と「おおむね妥当である」が3票ずつが多いわけですが、「内部評価が高すぎるためやや妥当ではない」といったマイナスの評価に2票入っておりますので、どちらかと言いますと「おおむね妥当である」となり、従いまして、緊急性についてもB評価となるのではないかと考えます。ご了解いただけますでしょうか。以上で、10事業についての全体評価が調整できました。事務局より確認をお願いしたいと思います。

(事務局)

それでは、評価結果について、1番目「コミュニティFM放送事業」から順次申し上げさせていただきます。「コミュニティFM放送事業」は、必要性B、緊急性B、効率性B、内部評価については「おおむね妥当である」となりました。続きまして、「地域おこし協力隊事業」は、必要性B、緊急性B、効率性B、内部評価については「おおむね妥当である」となりました。3番目「市内公共交通運行事業」は、必要性A、緊急性A、効率性B、内部評価については「おおむね妥当である」となりました。4番目「認知症総合支援事業費」は、必要性A、緊急性A、効率性A、内部評価については「妥当である」となりました。5番目「母子保健事業」は、必要性A、緊急性A、効率性B、内部評価については「おおむね妥当である」となりました。6番目「農地中間管理機構集積協力金交付事業」は、必要性A、緊急性A、効率性B、内部評価については「おおむね妥当である」となりました。7番目「商工会支援事業」は、必要性B、緊急性A、効率性B、内部評価については「おおむね妥当である」となりました。8番目「都市計画総務事務費」は、必要性B、緊急性B、効率性B、内部評価については「おおむね妥当である」となりました。9番目「下野子ども力発動プロジェクト事業」は、必要性A、緊急性A、効率性B、内部評価については「おおむね妥当である」となりました。最後の「小中一貫教育推進事業」ですが、必要性A、緊急性B、効率性A、内部評価については「おおむね妥当である」となりました。以上です。

(杉原会長)

ありがとうございました。以上で終了とさせていただきます。

(3) その他

(杉原会長)

その他ということで、各委員から何かありますでしょうか。無いようですので、事務局から何か予定されていたらお願いします。

(事務局)

次年度の市民評価に関して、1点報告させていただきます。市民評価の10事業については、市の重点プロジェクトに位置付けられた事業や事業費額等の要件により抽出した事業の中から選定させていただきました。しかし、このような要件による抽出では、委員が協議を希望する事業・取組が、その候補の中に反映されないとの意見がございました。そこで、次年度は、各委員の市民評価を希望する事業や取組について事前に意見をいただき、関連する事業を候補事業の中に盛り込めるシステムになるよう検討を進めております。各委員への希望調査については、後日、改めてご案内させていただきますので、よろしく願いいたします。

次に、本日の会議録ですが、調整次第、郵送にて送付させていただく予定で

す。内容等をご確認いただき、訂正等については返信用封筒を同封いたしますので、あらかじめご報告いただき、次回会議において確認したいと思いますのでよろしくお願いいたします。次回委員会については、市民評価報告書の最終確定と市長への報告書提出ということで、1月30日開催を予定しております。開催通知は後日送付させていただきますので、よろしくお願いいたします。以上です。

(杉原会長) 以上で本日の議事のすべてを終了いたします。それでは、進行を事務局にお返しします。

○閉会

(事務局) 以上をもちまして、平成29年度第5回下野市行政改革推進委員会を閉会いたします。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためにここに署名する。

会 長

署名委員

署名委員